



▶ 蓮沼 哲哉 准教授

スポーツで地域活性化

人間発達文化学類／地域スポーツ政策研究所

福島大学人間発達文化学類の蓮沼哲哉准教授は、スポーツ社会学の分野で、スポーツクラブの発展や、住民を巻き込んだ取り組みにより、スポーツで地域を活性化することを目指し研究をしています。

また、地域スポーツ政策研究所の所長として、相馬市でのビーチバレーボール大会や「ヴィレッジ」でのサッカーフェスなどのイベントを開催し、多くの人々を呼び込み、被災地の現状を知ってもらう機会をつくっています。

今年度、蓮沼准教授は相双地域支援サテライトのアレンジで、浪江町立なみえ創成小学校において運動不足解消や体力向上を目的に陸上競技指導を実施しましたが、「一過性のものでは身に付かず体力向上にもつながらないので、定期的な実施できる仕組みが必要。そのためにも、今後も相双地域の発展に努めたい」と話しています。



▶ なみえ創成小学校での陸上指導

相双地域支援サテライトの活動

企画・連携



▶ 矢吹さんの基調講演



▶ 各町からの活動報告

地域復興支援



▶ 志賀さんとの集合写真



▶ 放射線測定体験

復興創生シンポジウム 「福島復興の課題と未来への展望」開催

昨年12月9日に福島市で「復興創生シンポジウム」を開催しました。新型コロナウイルスの影響もあり参集型のシンポジウムは3年ぶりとなりましたが、85人の皆さんに参加をいただきました。

基調講演「福島復興の軌跡、これまでとこれから」では、(一財)とうほう地域総合研究所理事長の矢吹光一さんが、震災当初の金融機関としての支援、その時々に出会った人々のエピソードや福島復興の展望について話していただきました。

パネルディスカッション「相双地域支援サテライトの目指す復興創生」では楡葉町、富岡町、浪江町と福島大学が連携して行っている支援活動や復興が進む中の課題などの報告に続いて、今後目指すべき復興創生のあり方について議論しました。また、参加者からの質問も多く、復興途上にある福島の実状と課題への関心の高さがうかがえました。

大熊町の過去と現在を学ぶ スタディツアー

昨年11月3日、福島大学の学生などを対象にスタディツアー「中間貯蔵施設と大熊町、福島の未来」を実施しました。

中間貯蔵施設では、除染で発生した土壌の処理・保管状況を学び、放射線測定も行い、その値が場所によって異なることを体験しました。

その後、元大熊町役場参事の志賀秀陽さんに大熊町を案内してもらった後、「link大熊」で志賀さんから、震災前の大熊町の思い出、原子力災害後の町の苦闘の歩み、自身のふるさともある中間貯蔵施設に対する思いなどについてお話を伺い、活発な質疑応答もありました。

参加者からは「行政と町民、二つの立場からのお話を聞くことができたので貴重な体験だった」との感想が寄せられました。今後も定期的にスタディツアーを実施して、被災地の現状を多くの方へ発信してゆく予定です。

お知らせ 富岡サテライトが移転しました

富岡町役場内の富岡サテライトは2月1日、南東に約1km離れたNTT東日本磐城富岡ビル内のオフィス「とみおかワーキングベース」に移転しました。JR常磐線富岡駅から徒歩10分、国道6号を挟んで商業施設「さくらモールとみおか」の西側に位置しています。ぜひお立ち寄りください。

新住所 〒979-1112 福島県双葉郡富岡町中央2丁目83 とみおかワーキングベースJ号室



▶ 富岡サテライト移転先のとみおかワーキングベース



「相双の風」は、被災地域の今と、福島大学地域未来デザインセンター相双地域支援サテライトの取り組みを紹介するニュースレターです。相双地域支援サテライトは被災地と福島大学をつなぐ現地拠点として、被災地域復興に向けた支援活動を行っています。



TOPICS | トピックス

新春に復興と幸福祈る 双葉町で恒例のダルマ市

「巨大ダルマ引き」では南(右奥)が勝ち、商売繁盛の1年に期待

JR常磐線双葉駅前1月6、7両日、新春恒例の「双葉町ダルマ市」が開かれました。原発事故による周辺の避難指示が解除され12年ぶりの復活となった昨年に続き、2年目。避難先などから3300人が詰めかけ、町の早期復興や、この1年の幸福を祈りました。

ダルマ市は300年前の江戸時代から続く伝統行事。顔に太平洋を表す青い縁取りのある独特の双葉ダルマを売り出し、全町避難の間はいわき市内で継続してきました。初日は今年の運勢を占う「巨大ダルマ引き」が行われ、来場者らが南と北に分かれて高さ約2.5m、重さ約500kgのダルマを綱で引き合った末、商売繁盛・家内安全がかなう南が勝利しました。

いわき市に避難中の河野弘幸さん(57)は「ようやく地元でダルマ市や盆踊りができるようになりうれしい。にぎわいが帰還や移住のきっかけになれば」。福島市出身で一昨年に富岡町から移り住んだ大島遊亀慶さん(68)は「子どもの声が聞こえてこそ、町」と言い、復興に向け多くの新しい命の誕生を望んでいました。

「課題」を「強み」に 双葉町 避難先での教育環境

東日本大震災から13年。他の市町村の学校がふるさとに戻る中で、双葉町の幼稚園・小学校・中学校は、いまだにいわき市内の同じ敷地にある仮設校舎で学んでいます。そのような環境で子どもを見守る先生方に、避難先での課題について伺いました。



幼小中の連携と 「ワクワク体験」で育つ豊かな感性

双葉町立ふたば幼稚園 園長 堀内 弘志先生

環境的には恵まれていませんが、自分たちで改善していくことが大切と考え、工夫して保育をしています。一方で、小中学校がそばで、幼小中の連携がしやすく、園児はお兄さんお姉さんから学び、小中学生は自然と園児の面倒を見るようになります。人数が少ないことで園外保育にも行きやすいです。

園児たちには「心がワクワクするような体験」をさせたいと考え、「五感を刺激する音楽ワークショップ」や「移動式プラネタリウムによる星空教室」など、福島大学の協力で数々の「ワクワク体験」が実施できました。そこから、豊かな感性が育っていると感じており、将来良い形で効果が表れると考えています。

子どもの体力低下が心配だったころ、それを理解し体操教室を企画してくれたこと、また、コロナ禍のために2年も実施できなかった保育職員向け研修を粘り強く調整してくれたことは、大変感謝しております。

双葉町の幼稚園、小・中学校はいまだ町内への帰還の見通しが立たない状況ですが、双葉町での再開後も引き続き支援は必要です。福島大学とのつながりは今後も残していきたいと考えています。



少人数の利点生かす 今後は子ども同士の交流が必要

双葉町立双葉南・北小学校 校長 井戸川 浩先生

課題は多々ありますが、「課題」ではなく「強み」として捉えたいと考えています。例えば、少人数だからこそ、一人一人に目を配ることができます。また南と北の2校が一緒なので、単体ではできない体験活動ができ、児童に対する教員の人数も多くなります。プールや校庭がなく、隣の錦小学校のプールやいわき市内のグラウンドをお借りする場合も、人数が少なく移動しやすいです。

今年度、福島大学による事業を四つ実施しましたが、体験活動によって得られるものは大きいです。ただ話を聞くよりも、実際に体験することで相手の考えや気持ちが理解できるし、自身の経験にもなります。

今の双葉南・北小学校には「地域」がなく、人間関係が校内で完結し、交流がない環境に慣れてしまっています。福島大学による支援で大人との交流はできますが、同年代の交流が難しい状況です。今年度、加須市の小学生と交流しましたが、児童らはすぐに打ち解けていました。今後、福島大学には、子ども同士の交流の機会をつくってもらうことを期待しています。



少ない地域とのつながり さまざまな人と触れ合う機会を

双葉町立双葉中学校 校長 新田 勇雄先生

避難先に中学校があり、地域とのつながりが少ないと感じています。今年度は震災後初めて、職場体験を双葉町で行いましたが、そういう機会は多くありません。そのため、双葉町はもちろん、東京や京都の中高生・大学生など、さまざまな立場の人と交流する機会を大切にしています。

令和5年度は「自分の考えを豊かに表現し、互いに高め合う生徒」を重点目標に掲げています。その背景に、自分の思いや考えを上手に表現したり、自ら進んで取り組んだりする機会や経験の不足があります。福島大学の協力による身体表現ワークショップでは、オリジナルの振り付けを考える中で、生徒たち自身で意見を出し合うことができました。

また、福島大学の渡邊晃一先生による美術指導も実施しましたが、生徒たちの表現力にいい影響を与えたと思います。そのほか、今年度はバドミントン部への指導も支援していただきました。顧問、部員ともに指導前よりも上達していると実感しています。今年度実施したこれら三つの事業は、来年度も継続してご支援いただきたいと思います。



福島大学相双地域支援サテライトによる 双葉町立幼稚園・小学校・中学校への支援



福島大学相双地域支援サテライトでは、被災12市町村の教育現場のニーズに応え、学ぶことの楽しさを実感できるもの、子どもの体力向上を目的としたものなど、さまざまなワークショップを企画・実施してきました。現在はニーズも多様化し、最近ではミニコンサートや美術指導などの芸術系の要望も増えています。今年度、双葉町立幼稚園・小学校・中学校で実施した支援を紹介します。



福島大学公式マスコットキャラクター めばえちゃん

ふたば幼稚園での 「五感を刺激する音楽ワークショップ」



実施日: 2024年1月15日
講師: 福島大学
人間発達文化学類芸術・表現コース 杉田政夫教授
およびゼミ生2人

普段見かけない、世界中の変わった楽器をたくさん用意し、自由に演奏するワークショップ。「この楽器なんだろう?」「どうやって使うの?」「どんな音がするの?」子どもたちは興味津々。見て、さわって、聴いて、キラキラの笑顔でたくさん楽器を演奏しました。

双葉南・北小学校での 「体力向上のための体操教室」



実施日: 2023年11月17日
講師: 日本Gボール協会
長谷川聖修理事長
および筑波大学大学院生2人

児童らの体力低下や肥満などの解消のため、2018年から継続して実施しています。バランスボールなどとも呼ばれるGボールを使用した運動や長谷川氏考案のなかよしラジオ体操など、楽しみながら体を動かし、自然とトレーニングになるプログラムを実施しました。

双葉中学校での「美術指導」



実施日: 2023年7月19日、
2024年1月24日
講師: 福島大学
人間発達文化学類芸術・表現コース 渡邊晃一教授

双葉中学校には美術専任の教員がおらず、免許外研修を受けた教員が美術を担当しております。そこで、渡邊晃一先生が、2回にわたりデッサンの指導を行いました。1回目は「『球体』の描き方」、2回目は「『人体』の描き方」を実施。指導の前で生徒たちの絵が変化し、明らかに上達しました。